



# 平成28年度 稲作こよみ

津安芸農業協同組合  
監修 J A 全 農 み え

生育時期	播種	田植	田植40日後	中干し開始	出穂		出穂	落水	成熟
					20日前	18日前			
生育時期	みえのえみ	3/26	4/20	5/30	6/5	6/25	7/15	8/12	8/19
	コシヒカリ	3/31 4/5~10	4/25 4/30	6/4 6/9	6/9 6/14	7/5 7/8	7/23 7/26	8/21 8/24	8/27 8/30
	キヌヒカリ	3/31	4/25	6/4	6/9	7/6	7/26	8/25	9/2
	みえのゆめ	4/10~15	5/5	6/14	6/19	7/16	8/5	8/31	9/7
水管理									
	<p>落水が早いと減収する ・収穫7日前まで土壌水分を維持</p> <p>未熟粒防止の為に重要水管理期間 ・出穂期は水が必要</p> <p>中干し直後は走り水 ・5~7日に1回水を入れる程度</p> <p>中干しの散行(田植後45~95日頃) ・時期が遅れないようにする</p> <p>1株20~30本になったら足跡水 ・切らさない様に注意する</p> <p>除草剤散布後30日程度は水を ・浅水管理</p> <p>活漕するまで深水にして保護 ・田植中はひたひた水</p>								
主要作業	<p>イネミズゾウムシ (幼虫 体長5mm, 成虫 体長3mm)</p> <p>イネドロオイムシ (幼虫 体長5mm, 成虫 体長5mm)</p> <p>イネクロカメムシ (成虫 体長8mm)</p> <p>アザミヤカメムシ (成虫 体長11mm)</p> <p>トシロカメムシ (成虫 体長6mm)</p>								
	<p>ケイカル・ようりん施用 ・堆肥施用 ・土づくり ・収穫後早期に耕起する ・いる頃 ・一穂に青粒が2~3粒残って ・適期刈り取り</p> <p>第一回穂肥 ・穂肥病予防 ・葉いもち予防</p> <p>第二回穂肥 ・穂肥病予防 ・葉いもち予防</p> <p>第三回穂肥 ・いもち・カメムシ防除</p> <p>イネクロカメムシ防除 ・マルチサポート又はけい酸加里 ・登熟向上資材施用</p> <p>（後期除草剤散布） ・イネクロカメムシ防除</p> <p>（中期除草剤散布） ・マルチサポート又はけい酸加里 ・登熟向上資材施用</p> <p>（初期除草剤散布） ・播種量は穂芽粉1.5~1.8合 ・塩水選・種子消毒</p> <p>一発処理除草剤散布 ・1株当たり2~3本を目安に ・田植(坪当り50~70株) ・葉いもち病 ・イネミズゾウムシ 防除箱施用 ・イネドロオイムシ</p> <p><b>補植苗を撤去しましょう!</b> <b>畦畔の草刈をしましょう!</b></p>								
病害虫防除	<p>箱施用の防除(田植時の防除)</p> <p>イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ ○箱施用による1回防除 (バリアード箱型) ・移箱前日に1箱当り50g施用 ○箱施用ができなかった場合の防除 (トレボゾ粒) ・10アール当り2kg ・5月中旬~6月中旬に施用</p> <p>イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ・ニカメイチュウ・イネクロカメムシ・葉いもち ○箱施用による1回防除 (Dr.オリゼスタークル箱粒) ・緑化期~移箱当日に1箱当り50g施用 ※Dr.オリゼスタークルを使用する場合には、バリアードは必要ありません。</p> <p>葉いもち ○予防は粒剤で防除する ・コラトップ粒 3kg ・キタジnP粒 3kg ○発生を認めたら直ちに粒剤で防除する ・プラシオン粉DL 3kg</p> <p>穂いもち ・コラトップ粒 3kg ・フジワング粒 3kg ○穂ばらみ期(粒剤、粉剤)、穂揃期(粉剤)</p> <p>いもち病・カメムシ類 ・ダブルカットスタークル粉DL 3kg ○出穂期~穂揃期の夕方に防除する</p> <p>紋枯病 ・モンカットフロアブル 500ml ○出穂前15日前後が散布適期</p> <p>稲こらじ病 ・イモチミン粒 3kg ○出穂2~3週間前が散布適期</p> <p>カメムシ類 ・スタークル粒 3kg ○イネクロカメムシは発生初期6月上旬頃 ○斑点カメムシは出穂期前後</p> <p>カメムシの食害による斑点米は等級落ちの原因となります。しっかりと防除をしましょう!</p>								
	<p>※農薬を使用する際は、周辺作物等への飛散(ドリフト)に充分注意してください!!</p>								

## 白未熟粒(シラタ)軽減対策

白未熟粒の発生は、出穂後20日間の平均気温が27℃を超えると急激に増加する。また、発生要因は高温だけでなく、水や日照時間、施肥量不足などの複合的な要因も考えられている。平均気温が27℃以下になる頃(9月上旬)に出穂時期を迎えるように田植えを行うことが望ましいが、その場合、田植えが6月上旬頃となる。

上記のように作付け時期を遅らせる、もしくは作付け時期の遅い品種に変更することが白未熟粒を軽減させる対策としてはもっとも有効と考えられるが、現状では困難であるため、下記の方法を白未熟粒軽減対策として推奨する。

- 土づくり  
ケイカルなどの土壌改良資材を収穫後に散布し、根張り良くしっかりとした稲を作り、倒伏や病害虫を発生しにくくし収量・食味を向上させる。
- 早期落水の防止  
早期に落水する事により土壌水分が低下して、株が枯れ、白未熟粒が発生しやすくなるので収穫7日前までは落水せず、土壌水分を維持させる。
- 白未熟粒軽減資材の活用  
数年前より、県の農業研究機関にて試験を行なった白未熟粒軽減資材(下記参照)を施用する事により軽減させる(但し、気象条件等により効果に差があります)。

## 施肥設計

施用時期	肥料名	施用量	従来品	施用時期	肥料名	施用量
田植10日前~田植時	エムコート022	35~40kg	田植10日前~田植時	エムコート824	40kg前後	
	セラコートR822	40kg前後		セラコートR845		
田植10日前~田植時	津安芸水稲化成	25~35kg	品種	肥料名	施用量	
	IB化成050		あきたこまち	エムコート583(早生用)	40~50kg	
追肥第1回目(出穂18日前)	NK化成4号	10~20kg	みえのゆめ	セラコートR2500(中晩生用)	45~55kg	
追肥第2回目(出穂7~10日前)	NK化成4号	10~20kg	◎品質・登熟向上資材(10a)	資材名	施用量	施用時期
追肥第3回目(出穂期頃)	NK化成4号	5~10kg	品質向上	けい酸加里	20~40kg	出穂前45~35日まで
追肥一発(出穂18日前)	グッドIB045	20~25kg	登熟向上	マルチサポート	20~40kg	出穂前45~35日まで
				FTEミネラス	3~6kg	出穂前35~25日まで

効果  
1.活力ある根が張り、稲体を強化し倒伏に強くなります。  
2.登熟が高まるとともに粒張りが良くなり、食味向上に役立ちます。

## 育苗

◎種子の準備 毎年種子更新しましょう。  
◎塩水選  
うるち米 水10ℓ 食塩 約2.1kg  
もち米 水10ℓ 食塩 約0.9kg

◎種子消毒  
作業 温度・日数 要点  
消毒 15~20℃ 24時間  
みえのゆめ以外の品種  
種粒と同容量の薬液を作る(水20ℓ当り)  
テクリードCフロアブル...100ml (馬鹿苗病もみ枯病菌)  
スミチオン乳...20ml (イネガレセンチュウ)

◎育苗箱消毒  
イチバン500~1000倍液に箱をさっと浸ける  
◎培土  
箱入れ後、乾かさないうち注意しましょう。  
(1箱当り約3~4kg必要)

◎病害防除  
農薬名 時期 1箱当り施用量 備考  
タチガレエースM粉 播種直前 6~8g Mレ苗にも有効  
タチガレエースM液 播種時 500~1000倍、500ml Mレ苗にも有効

◎育苗管理  
作業 温度・日数 要点  
出芽 30~32℃ 約2~3日  
芽の長さ1~1.5cmにする  
光を当てない  
緑化 日中20~25℃ 夜間15~20℃ (保温・暖房)  
緑化は2段階の作業  
(1)緑になるまで覆いをする(新聞紙など)  
(2)鞘の部分3.5cmに伸ばす  
フジワングによる健苗育成、ムレ苗予防  
播種後3~7日に散布。25~50g/箱  
早い程、又葉量が多い程短苗になるので注意  
被覆中もカビの発生に注意  
硬化 日中15~20℃ (換気) 夜間10~15℃ (保温)  
日中高湿にしないように注意する  
緑化用の厚手白ビニールは使わない  
ハウス・トンネルは一日中当りの良い場所  
灌水は1日1回、1~1.2ℓ/箱  
午前中(遅くとも15時まで)がよい  
ハウス内にワラ、モミガラがあるといもち病が伝染する。  
箱の下にビニールを敷く場合は穴をあける

## 土づくり

土づくりは品質向上への第一歩です。  
(1)有機物の施用 堆肥を連年施用する(年内施用) 1~2トン  
・湿田、半湿田では完熟のもの500kg  
・稲わらすき込み  
・秋起こし(刈取直後)  
・石灰窒素10~20kg(秋起こし時)施用

(2)深耕 作土層を深くする(15~20cm)  
下層が不良土壌の場合は行わない

(3)土づくり肥料の施用  
ケイカル  
又は リンスターケイカル } 200kg  
単品ならケイカル } 200kg  
又は ようりん } 40kg (黒ボくでは80kg)  
又は リンスター }  
コシヒカリには特にケイカルが必要  
ケイカルは省力材・農力アップなら反当り100kg

## 除草

除草剤の正しい使い方  
・散布適期、散布量を厳守する。  
・田面の均平と適正な水管理。

田植え同時散布可能な  
中中期一発除草剤  
・トップガンGT1キ0粒  
・トップガンLフロアブル  
・ウィナー1キ0粒  
・ウィナーLフロアブル

ノビエに対する使用時期  
農薬名 使用時期  
ウィナー1キ0粒 2.5葉期まで  
ウィナーLフロアブル 2.5葉期まで  
トップガンGT1キ0粒 3.0葉期まで  
トップガンLフロアブル 3.0葉期まで  
コメットジャンボ 2.5葉期まで  
ボッシブルジャンボ 2.5葉期まで

使用区分(日) 使用時期(日)

難防除雑草 多発田 (抵抗性ホタルイ対策剤)

除草剤を  
使用でき  
ない期間

ウィナー1キ0粒  
・Lフロアブル

トップガンGT1キ0粒  
・フロアブル

抵抗性ホタルイには  
パサグラン粒・液

ノビエ・キシュスズメ/ノビエには  
クリンチャー粒・E/W(液)

抵抗性ホタルイ・クロクワイ  
コウキヤガラにはハイカット剤

イボクサ・クサネムには  
ノミニエ液

体系処理

メテオ

コメットジャンボ  
ボッシブルジャンボ

※田植同時散布が可能です。 ※通常より少し遅めの散布が良い。

※ムレ苗防止 健苗育成にフジワング粒!! イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ・ニカメイチュウ・いもち病にはDr.オリゼスタークル箱粒で!!  
※品質向上には、毎年種子更新と土づくりをしましょう!! ※稲ワラの流出防止のため収穫後早期に耕起しましょう!!

## 防除日誌

使用月日(天候)	使用薬剤名	倍率・量	全使用量	使用目的
月 日( )				
月 日( )				
月 日( )				
月 日( )				
月 日( )				
月 日( )				

## 作業日誌

作業月日	圃場	作業内容	備考
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			

安全・安心な米づくりのために栽培履歴(防除日誌)を必ず記帳しましょう! 農薬の安全使用基準を守りましょう!